

月刊

よみうりだより

令和3年3月
第30号

皆さまこんにちは。代表の阿部です。

おかげ様でよみうりだよりを発刊してから今回で30号を迎えます。お客様と文通がしたいという思いから始めたニュースレターですが、皆様からのお葉書に元気づけられ、勇気をいただくことで、なんとかかんとか30号まで続けることが出来ました。ひとえに読売新聞をご愛読いただいているお客様のお陰です。ありがとうございます。これからも皆様との文通を楽しみながら、50号、100号と目指してまいりますので変わらぬご愛顧の程宜しくお願い致します。

さて、今月の11日で東日本大震災発生から10年目を迎えます。私自身、今一度この10年を振り返るために当時のことを思い起こしながら文章にしたいと思います。震災が起きた2011年、私は仙台市の中野栄店という読売新聞の販売店所長をしておりました。中野栄店は仙台港近辺をエリアとし、店舗の100m先には仙台港三井アウトレットパークが位置するところに構える小さな新聞販売店です。2時46分の地震発生時、私は仙台市中心地のビルの中で研修会に参加している最中でした。今まで体感したことのない大きな揺れに、叫び声とともにガラスは割れ、電気が停電。建物が崩れ落ちるのではないかと思うほどの強烈な揺れが続くなか、最悪なことを覚悟せざるを得ませんでした。なんとか揺れが収まったころをみはかり建物の外に出てみると、近くの公園に向かって避難しようとする人達で溢れ、恐怖で泣きながら、中には叫び声をあげる方もおり、その様は起こってしまったことの重大さを気づかせてくれるにはあまりにも現実離れしたものでした。急いで販売店に戻ろうとするも道路の信号は消え、道路上はパニックに陥り車が全く進みません。普段であれば20分もあれば着く距離が10時間もかかるほどでした。帰路に向かう車の中、何か情報を得ようとラジオを聞いてみると、そこからは仙台港に10メートルの津波が到達することを伝える大津波警報が何度も流れていました。今まで津波警報が発生することはありましたが大津波警報を聞くのはそれが初めてでした。日付が変わりようやく販売店に到着。真っ暗な暗闇の中を携帯のライトで照らしてみると、ありとあらゆるものが倒れ、床にはチラシが散乱する様が見えました。外には津波が来たであろう痕跡とともに配達用のバイクや車が流されており、その悲惨な有り様を見て私は、正直この仕事を続けるのはもう無理だろうと思いました。しかし、少し時間が経ち、新聞が輸送されてくるいつもの時間になる頃、電話が繋がらず連絡がつかなかったスタッフたちがひとり、またひとりといつものように出勤してきては、新聞配らなきゃと思って来てみましたと言うのです。辺りは警報のサイレンが鳴り響くこんな状況の中、新聞を配ることがさも当たり前のように出勤してきたスタッフの使命感に感動した私は、弱音を吐いている場合ではない、スタッフや読者のために絶対に何とかすると心に誓いました。3月12日付の新聞は結局いつもの時間には届かず、日中の正午ころ販売店に店着しました。こんな時でも新聞は輸送されてくるのだなと読売新聞社にも恐れ入ったのを覚えています。そこから数名のスタッフとともに配達可能なエリアと避難所へと新聞を届けたのですが、新聞が届くことへの驚きと避難されていた多くの方達が情報を得ようと必死に新聞を開いていた姿はアナログな新聞の価値を垣間見た気がして今でも印象に残っています。

当時、私の販売店では読者が1,500軒ほどおりましたが、そのうち500軒もの方が津波で家が流されるなどの甚大な被害を受けられてしまいました。犠牲になられた方も多く本当に残念でなりません。10年が経ち、復興し町が日常を取り戻した今でもその時に受けた傷は癒されることはないと思います。3月11日の2時46分には犠牲になられた方々に心から追悼の意を表し黙とうを捧げたいと思います。

あの時から10年・・・

余談にはなりますが、震災発生時、妻のお腹の中には第一子となる長男がおり臨月を迎えておりました。診療予定日ではなかったのですが、少しお腹が張って痛いからと心配になり診察をしてもらうために向かった病院先で被災しました。妻は安全のためにそのまま病院に緊急入院。幸いにも病院は高台にあったおかげで津波の影響は受けませんでした。病院へ向かう道路はすべて冠水し通行不能となってしまった為、地震が起きてからでは病院へ向かうことは不可能でした。もしかしたらお腹の中で何かを感じ取った赤ちゃんが危険を知らせてくれたのかもしれませんが。そんなことから息子の名前にはお守りの石である琥珀から一文字を取り、琥太郎と名付けました。その息子が成長していく姿をみると、震災を受けてからの10年、本当に多くの方々に支えられて今があるのだなと実感します。何かのご縁があり米沢のお客様と関わる事が出来ることに感謝し、その気持ちを忘れることなくこれからも新聞をお届けしていきたいと思ひます。

さて、これから入学シーズンを迎えます。4月には可愛らしい子供たちがピカピカのランドセルを背負ってご入学を迎える、希望に満ち溢れた明るい季節がやってきます。ご家族様にとってお子様一人ひとりに沢山の思い出とともにエピソードがあると思ひます。こどもたちの成長の節目となるご入学を少しでもお祝ひしたいと思ひ、ささやかではありますがプレゼントをご準備しました。新入学されるお子様がいらっしやれば是非教えていただければと思ひます。

最後に、少し長くなりましたが震災から10年を思い返し書かせていただきました。10年前を決して忘れることなく、これからは大切に生きていこうと思ひます。

(株)阿部新聞店
代表取締役 阿部 憲太郎



中央2丁目の「サカキ写真館さん」へ行ってきました

酒井代表にお聞きしました♪

○今日は新入学生向けのサービスがある写真屋さんがあると聞きお伺いしました。
まずはじめに業務内容を教えてください。

ブライダル・赤ちゃん・七五三・入園入学卒業・成人式などの記念写真撮影、それに伴うレンタル衣装の貸し出し、さらに学校の卒業記念アルバムの制作などを行っている写真館です。

○創業されてから何年になるのでしょうか？

1906年(明治39年)にこの地で創業し今年で115年目を迎えており、私で3代目になります。米沢で今現在営業している写真館では、最も長い期間営業しているお店になります。

○なぜこの仕事をしようと思ったか聞かせていただけますか。

子どもの頃から写真が好きで、家業である写真館を継ぎたいと思っていましたが、高校は進学校に通っていたこともあり、当たり前のように大学に行くものと思い受験勉強を頑張っていました。高校3年生の冬、大学受験で合格通知が届き、進路が決まり喜んだのもつかの間、急に迷いが生じてきました。今すぐにでも写真の世界に飛び込みたいという気持ちが芽生えてきたのです。随分悩みましたが写真を撮りたいという気持ちが勝り、合格を喜んでくれた両親に自分の気持ちを伝えるのは辛かったのですが、両親にも先生にも正直に話し、その結果高校卒業後は写真の道に進むことにしました。ただし、父は私の考えが甘いとも見ていたのかもしれませんが。「よそで修行してこい！」と、卒業式後に静岡県三島市の写真館に住み込みで弟子入りすることになりました。そして4年の修行を終えたのち米沢に戻ってきました。

○米沢に戻りサカキ写真館で働き始めた当初はいかがでしたか？

当時は昭和40年代半ばの高度経済成長期で、仕事はたくさん入っていた記憶があります。白黒写真からカラー写真に移行し始めていた時期で、ブライダル撮影ではそれまで集合写真の1枚撮りが普通だったのが、カラーで見栄えも良くなっていたこともあり、衣装替えるたびに撮影するスタイルが変わっていきました。さらには、その頃米沢市内で新しい結婚式場がオープンしたことでブライダル撮影の件数が増え、大安吉日にもなると日中は数件の結婚式の撮影をこなし、夜はお店に戻ってひたすら現像するような状況で、それはもう目が回るほどの忙しさでした。今思えばその時は時代が引っ張ってくれたと思います。

○高度経済成長期が過ぎた後はどのような状況だったのでしょうか？

その後オイルショックになり、世の中には閉塞感が漂ってきました。さらには1家に1台カメラが普及したことにより、「写真屋さんで撮影してもらおう」から「撮影は自分で行いプリントは写真屋さんで」にスタイルが変わり、写真業界も変革時期を迎えました。同じことをしていたのでは縮小の一途をたどると思い、何か新しいことを始めなければダメだと思いました。そこで考案したのが、今では当たり前となった「写真を数多く撮り、お客さんにお気に入りの写真を選んでもらう」というサービスです。それまでは撮影した私たちが写真を選び納品していましたが、お客さんご自身に気に入った写真を選んでもらえば喜ばれると考えたのです。まずはテストも兼ねてモデルさんに協力してもらい、撮影後にお気に入り写真を選んでもらったのですが、初めの頃は私が良いと思った写真とモデルさんの気に入った写真が一致することがほとんどありませんでした。その時初めて、お客さんの求めていることとずれがあることに気づきました。そのようなことがあり、私もどのような写真だと喜んでもらえるのかと考え、撮られる側からの視点で撮影方法の工夫を重ね続けたことにより、だんだんとお客さんが求める写真が撮れるようになってきたと思います。

○心がけていることを教えてください。

写真撮影では「雰囲気づくり」が最も大切だと思っています。お子さんの撮影の時は、どの親御さんも笑顔の写真を撮りたいと思い、お子さんに向かって「〇〇ちゃん、笑ってー！」と言うのですが、不思議と笑ってと言えば言うほどお子さんは笑わなくなります。ですから撮影の際はテクニックが必要になります。小道具を使ったり思わず笑ってしまうような言葉をかけながら撮影することで、自然な表情や笑顔を引き出すようにしています。

もう一つ心がけていることは、「ストーリー作り」です。七五三や成人式などの撮影依頼をいただいたお客さんには、誕生から子育て中の思い出の写真をお持ちいただいています。

私たちが撮影した写真にプラスして、幼少期の思い出の写真もアルバムに並べていくことで、

「あんなに小さくて可愛かった我が子が少しずつ大きくなって成長した」

このようにお子さんの成長が一目でわかるようにすることで、両親もお子さんも心から感動できるのではと考え始めたサービスです。



☆撮影の様子☆



この春市内の小学校に入学するお子さんです♡

○今後の目標を教えてください。

今はデジタル時代となり、誰でも簡単に写真撮影や編集ができるようになりました。このような時代だからこそ、プロならではのサービス提供が必要だと考えています。先ほどお伝えした、七五三撮影や成人式の前撮りに「生い立ち」などのストーリー性に加え、より感動が伝わるよう動画などの映像をミックスした当店独自のオリジナルサービスを目指し挑戦中です。但し、時代がどのように変わろうとも、「一枚の写真から伝わる感動をお届けする」ことをテーマに、これからも頑張っていこうと思っています。

○最後に読売読者に伝えたいことがあればお話しください。

当店では新小学1年生、現在の小学6年生向けの「入学・卒業記念着物写真キャンペーン」を行っており、着物が無料でご利用できます。お気軽にお問合せください。



サカサ写真館

米沢市中央2丁目2-12
TEL:0238-23-3094

<営業時間> 9時～18時
<定休日> 水曜日



ホームページ



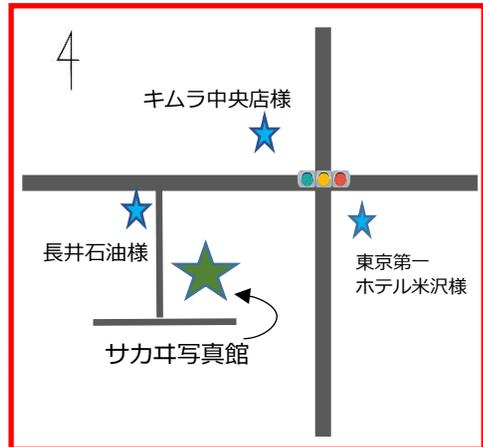
LINE公式



グーグルマップ



サカサ写真館の皆さん



【佐々木昭さんの絵手紙】 第4回



— 弥生十景 —

勅題を仕上げし雛の息遣い
月三更ゆき交ふ雛の京ことば
楽器失せパントマイムの古雛
くさび文字中洲に刻み鳥帰る
春近し湖へ吹き出すトロンボーン
陽がさして紙漉きの里水温む
帰白鳥一心一羽も振り向かず
分校のチャイムに目覚む猫柳
ブロンズの肩迂りくる春の雪
曲がり家の軒より点滴雪解の賦

【作者：佐々木昭(91歳)】

米沢絵手紙の会事務局・米沢俳句会事務局・米沢郵趣会事務局でご活躍中

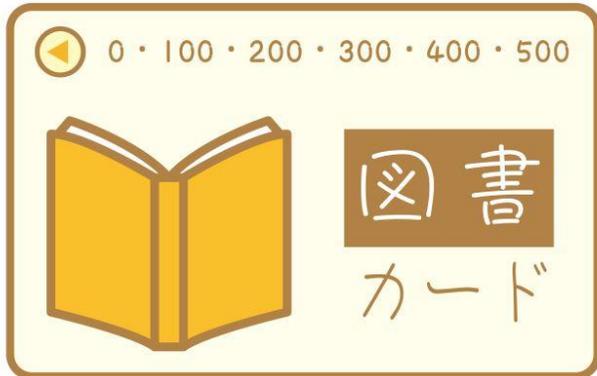
◆よみうりだより読者プレゼント!



新小学1年生入学記念♪

「子ども図書カード500円分」 & 「防犯ブザー」プレゼント!

この春、米沢市内の小学校に入学されるお子様が対象。ご応募された方にもれなくお届けいたします



新小学生のみなさん、ご入学おめでとうございます(。ω。)/☆祝☆、(。ω。)
これからおともだちと仲良く遊んで楽しく元気いっぱいな毎日をすごしてください。

保護者の皆様、まもなく迎えるお子様のご入学、誠におめでとうございます。
阿部新聞店は、今後のお子様の健やかな成長と皆様のご多幸を心よりお祈りしております。
今回わずかばかりでございますが、お祝いの気持ちを込めてプレゼントさせていただきます。

応募方法

下記お申込書にご記入の上、点線より切り取り官製はがきに貼ってポストへ投函して下さい。
<ポストへ投函される方は63円切手を貼って下さい・当店へご持参される方は切り取った用紙だけで結構です>
(ご記入いただきました個人情報は厳重に管理いたします。また、外部への開示や提供はいたしません)

- ※米沢市内の小学校に入学されるお子様が対象です
- ※同居していなくても可能です
- ※対象のお子様 一人につき一点のプレゼントとなります

【応募締切】3月20日到着分まで
【プレゼント品お届け】3月下旬以降

森永絹とうふキャンペーン開催!



「挽き搾り製法」で
雑味のない濃厚な大豆本来の
味わいが楽しめる!

- お湯のみで
お料理に
- そのまま
楽しむのに
- 加熱可能
- 濃厚
美味
- 日持ち
長持ち
- 保存料
不使用
- 挽き搾り
製法

森永絹とうふ

本日3月5日の
折込チラシを
ご覧ください

氏名

住所

電話番号

下記項目にお子様のお名前ご住所等ご記入下さい。
※重複応募は一名分となります。

①お名前 男 女
丸を付けて下さい

②ご住所

③小学校名

④ご応募者様とお子様の関係



阿部新聞店

ABE SHINBUN TEN

読売センター米沢

〒992-0012 米沢市金池 1-5-36

TEL 0238-23-2281

FAX 0238-24-4370

【3月の新聞購読料集金】3月23日より開始いたします

【3月の新聞休刊日】3月15日(月)です

【よみうりだより4月号】4月5日(月)発行予定